



KUMAMOTO

The Weekly Bulletin

GREEN Rotary-Club

Kumamoto green rotary-club district 2720 rotary international

**UNITE
FOR
GOOD**

2025～
2026年度
テーマ

R.I. 会長テーマ 「よいことのために手を取りあおう」

R.I. 会長 フランチェスコ・アレツォ

**R.I.2720地区テーマ 「みんなでつなぐ、育てる、
ロータリー・リレーションシップ」**

R.I.2720 地区 ガバナー
藤田千克由

**熊本G.R.C.テーマ 「ロータリーを楽しみ積極的な参加を！
楽しいロータリー環境を自分で作ろう！」**

熊本グリーンRC会長
山口 翼

■例会日：毎週月曜日 18:30～19:30
■例会場：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル
TEL096-326-3311

■創立：平成元年2月22日 ■会長：山口 翼 ■幹事：田代 武 ■会報担当：江上泰弘
■事務所：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル内
TEL096-354-4521 FAX096-354-4053 E-mail:kgrc@serc2720.org

国際ロータリー
第2720地区

熊本グリーンロータリークラブ週報

第 1586 回

2025 - 2026 年度 第 21 回

令和 8 年 1 月 26 日

【例 会】

「黙 禱」

上田観一名誉会員のご逝去に際し

1. 閉会・点鐘 18:30

「奉仕の理想」 (ロータリーソング)

2. 食事と交歓

来訪者紹介 (河野 景治 副会長)

ビジター

熊本東南RC 鈴木 義親 氏, 山田 公也 氏

友情の握手

会長挨拶 (河野 景治 副会長)

本日は山口会長がインフルエンザにかかれたとのことで、ピンチヒッターで会長挨拶を申し上げます。

先ずもって、例会冒頭に皆様に黙禱いただきましたとおり、たいへん残念なことに、2001～2002 年度 (第13 代) 会長、そして 2008～2009 年度 (第20 代) 会長であられました名誉会員の上田観一

会員が昨日、78 歳でお亡くなりになりました。上田会員は数年前、出張先の北九州で倒れられ、病気療養中でございました。会長職のみならず、各々の奉仕委員会の委員長はじめ、わがクラブのチャーターメンバーのお一人として、大活躍いただきました。真にご冥福をお祈りする限りでございます。ありがとうございました。

また、本日は急遽、例会プログラムとして、河島会員に、NHK の大河ドラマでも取り上げられております「豊臣兄弟」にかかわる卓話を頂きます。NHK ドラマとは違った史実に基づいた興味深い貴重なお話と関連の資料もご準備いただきました。大変価値ある卓話かと期待と、感謝を申し上げます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

幹事報告 (田代武幹事)

■報告事項 (その他のロータリー関係)

① 「2720 地区大会」

★親睦ゴルフ大会：5 月 22 日(金)8:00～

場所：トライアル&リゾート OITA COURSE

プレー費：セルフ 8,900 円 (食事別)

参加費：3,000 円

グリーンロータリー・クラブの例会日がきても、出席するかどうか決めるには及びません。

というのは、私にとって出席は決まりきった事だからです。これは、ロータリーに入会したとき受入れた義務の一つです。

卓 話 予 定

2 / 2 熊本グリーンローターアクトクラブの半期活動報告

2 / 9 「第4回クラブ協議会」

2 / 16 「熊本グリーンRC創立37周年記念例会」

★アトラクションは豊田隆博氏 (盲目のジャズピアニスト)

2 / 23 祝日休会

[熊本グリーンRC ホームページアドレス] <http://www.kg-rc.com/>

★希望交流会：5月22日（金）19:00～

場所：大分マリンパレス水族館「うみたまご」

会費：18,000円（水族館入場料含）

★本会議：5月23日（土）10:00～

場所：ホルトホール大分

会費：10,000円

<例会変更・取り止め>

●例会取り止め

[熊本東RC]

2月24日(火)の例会は、祝日が含まれる週に伴い、取り止めます。

委員会報告

「ロータリーの友」1月号の内容紹介

報告者：荒木一之公共イメージ委員長



出席報告

(クラブ管理運営委員長 宮部康弘 会員)

	会員総数	22名	出席率
1月26日	出席免除会員数	0名	72.73%
	計算上会員数	22名	
	出席会員数	18名	
12月29日	前回の出席会員数	名	休会
	メイクアップ数	名	
	修正出席会員数	名	
メイクアップ済み会員及びメイクアップ訪問先			
なし			

スマイル (山口悦史会員)

●河野景治君、田代武君

①「当クラブの名誉会員の上田観一様の訃報に接し、ご冥福をお祈りします。」

②「熊本東南RCより鈴木様、山田様の御来訪、心より歓迎致します。」

③「本日は河島一夫会員にお話を頂き、急なお願いでしたが、快くご承諾頂き感謝申し上げます。」

●河島一夫君

「つたない卓話をします。予行練習です。うたた寝していていいですよ！」

●宮部康弘君

「豊臣兄弟の話、楽しみにしていました。本日もよろしく願致します！」

●山口悦史君、田中慎二君、荒木一之君、田中純司君

「本日は河島さんの卓話楽しみにしております。大河ドラマがより楽しみになりそうです。また、本日は熊本東南RCの鈴木様、山田様のご来訪、心より歓迎致します。」

3. 例会プログラム

卓話者：河島一夫 会員氏

演題：「豊臣兄弟の島津征伐」



卓話者 河島一夫会員

4. 閉会・点鐘

* 例会終了後、臨時理事会開催

「豊臣兄弟の島津征伐」 河島 一夫 会員

秀長は、天正 15 年 2 月 10 日に、居城大和郡山を 15,500 人で出陣し、3 月上旬には関門海峡を渡り、豊前小倉をへて豊後に入り、毛利輝元・小早川隆景らの毛利軍と、黒田孝高(よしたか)・蜂須賀家政・加藤嘉明・脇坂安治らと合流、その後、宇喜多秀家・尾藤甚左衛門・大友義統らの軍を加えて 15 万ほどの軍勢となって、3 月下旬、秀吉より進攻の命を受け、黒田孝高、蜂須賀家政、尾藤知宜、大友義統を先鋒とし、伊藤祐兵、佐伯惟定を嚮導として進攻しました。沿岸警備には長宗我部元親、毛利水軍の将野島元吉、大友の水軍五千が南下します。秀長は、毛利輝元、吉川元春、小早川隆景、宇喜多秀家、宮部継潤(けいじゅん)らと日向に向かい、まず、延岡の京城(あがたじょう)を一気に攻め陥落させました。4 月 6 日、耳川を渡り、高城を包囲します。城将山田有信は 1300 人が死守していました。秀長軍は、井楼を組み、五百匁、一貫目の大筒で砲列を敷き、轟轟と雷鳴のごとく打ち込みます。高城は 10 万の兵による攻撃で悲惨を極めました。島津義久は、高城南五里の都於郡(とのこうり)に布陣していましたが、苦戦の連絡を受け、義珍(よしたか)、家久と共に二万の兵を率い、樺山、平田、伊集院、石田の諸隊が先鋒となり、北郷一雲が左翼、伊集院忠棟が右翼に進出、根白坂砦を急襲した。一方、秀長本陣からも藤堂高虎が一千人の兵を率い乱戦となる。続いて黒田孝高、小早川隆景も応援に駆けつけて、島津の背後を攻める、義久の甥の三郎次郎忠隣(ただちか)は、19 歳の初陣、先頭きって敵に向かい、宮部陣に突入して奮戦しましたが、弾を受けて討死しました。島津軍は、おびたしい銃火を浴び、都於郡へ引き上げます。5 月、秀長は、秀吉から、降伏を奨める指示を受けて、足利義昭の家人、一色昭秀と僧木食興山を島津本陣へつかわし、降伏を進め、不本意であったが島津家久は降伏に応じました。家久は、長秀に降伏した後、6 月 5 日に急死します。これは、長秀が毒をもったという説と島津家臣が毒をもったという説があります。

島津義弘 50 歳は、まだ降伏していません。豊臣勢と決戦して、日向の確保を考えていました。5 月 14 日、秀長の武将福智長通は、義弘の陣に行き、降伏するように説得し、19 日、秀長の本陣に行き降伏を告げます。秀吉は、人質として長子久保(ひさやす)を京都に送るように命じて、5 月 25 日に義弘には大隈一國を宛がわれています。また、義弘の子の久保には、日向の真幸院の一郡を宛てがう。

一方、秀吉は、大阪城で、千利休と大茶湯会を行い、20 万の兵を従えて、大阪城を羽柴秀次と前田利家にまかせて、天正 15 年 3 月 1 日に九州に向かいます。秀吉は、緋緘の鎧に鍬形の兜、赤地の錦の直垂という格好で、従う武士達も派手な出立だったとあります。また、軍中には茶頭千利休、津田宗久ほか、連歌師、医者、歌舞伎役者等も従って戦に行くとは思えない振る舞いでの出陣でした。途中、厳島神社に詣でたり、名所を見物したり、連歌の会を模様しながら、九州に向かいます。3 月 28 日に豊前の小倉城に入りました。4 月 1 日午前 4 時に英彦山麓の標高 450 メートルにある岩城城を攻めはじめ、大軍が攻めても 7 ヶ月はずつとされていた城を、大筒、鉄火器の音、法螺貝、陣太鼓を打ち鳴らし、蒲生勢は、屍を踏み越えて、2 時間で前線の砦を奪還し、本城の攻撃と向かいます。壮絶な戦いの末、午後 4 時には城を征服しました。それを見ていた秋月種実(たねざね)40 歳は、震えが止まらなかったとあります。種実は、居城を

浅野長政・毛利吉成に開け渡し、剃髪して墨染の衣を纏い秀吉に出頭、16歳の娘を人質に差し出し、金20枚、米二千石のほか、名物の肩衝「樞柴」を献上して許しを請いました。

秀吉は、不憫に思い、命を助け、島津征伐の先手として忠節を誓わせ、赦免されました。また、九州の豪族たちは、秋月に布陣の秀吉に謁見し、降伏を申し出ました。

大友宗麟が、布陣している秀吉を訪ねました。秀吉は、30人ほどの敵の首が差し出され上機嫌の中、宗麟を呼び寄せ手厚くもてなします。宗麟は、この時は、ペストに罹って、めっきり年老いていました。哀れに思った秀吉は、関白の紋章を描いた緋色の絹の着物を与えました。その後、宗麟は籠で津久見に帰り、ラグーナ神父の元で、58歳で亡くなりました。

4月10日には、筑後高良山に肥前の龍造寺政家が出頭し、島津に服属していましたが、秀吉の配下に着きます。16日には、熊本に到着、隈本城主城十郎太郎(親賢ちかまさ)も降伏します。19日、八代に着き、5日逗留、先陣は、24日田ノ浦、25日佐敷、26日水俣、27日に島津領内、出水に至ります。出水の城主島津忠辰(ただたつ)は、抵抗せずに、実の子を人質に出して薩摩への道案内を務めます。周辺の野田・高尾野・阿久根等の城主も降伏します。平佐地頭の桂忠詮(ただのり)は、平佐城に300名ほどで抵抗しましたが、1日で降伏しました。5月3日、秀吉は佐敷から船で出水に入り川内まで下って泰平寺に本陣を定めました。5月下旬、秀吉から島津から人質が提出されたという報告を受けます。その後、秀吉は泰平寺から川内川をさかのぼり、大口に陣を移動しました。その途上に、島津歳久49歳は、合戦で跡継ぎの忠隣(ただちか)を失った恨みもあってか、秀吉の籠に弓を射かけました。その時は、何事もなかったのですが、5年後の天正20年の朝鮮出兵途上、梅北国兼の起こした一揆に連座して切腹を命じられました。

島津義久は、重臣伊集院忠棟の「大兵力の敵を籠城し一戦すれば島津家が滅亡することになる。今はただ降参を乞うて、講和を受け入れれば、日向、薩摩、大隈の一国なりとも残ること叶うことだ、さあならば、由緒ある家系は残ると存じます」と申し上げ、義久も講和を受け入れました。秀吉、大いに喜び義哉坊を呼び寄せ接待しました。5月8日、義久は島津征夫、同忠長、町田久倍、伊集院忠棟らと共に剃髪し、墨染めの衣をまとい、17歳の愛姫亀寿を人質にさしだし、他の一族も人質を差し出し、泰平寺に出向きました。義久はこののち「龍白」を名乗ります。秀吉は、参上の褒美として秘蔵の宗近の太刀をつかわし、鹿児島城まで参ると言った。実際は石田三成が鹿児島まで行きました。

秀吉は、諸処の処置を終えて、7月1日、博多を出立します。翌日、赤間に上陸し、毛利輝元の出迎えを受け、全軍、山陽道を陸行し、4日岡山城に入りました。12日、片上(かたかみ)を船で北上、大阪城に凱旋し、29日には、禁裏に参内し、島津征伐で、九州平定を参上しました。島津義久には、薩摩一国の知行を宛行われました。肥後国は、佐々成政に宛行われました。

少し後になりますが、文禄3年(1594)正月、宮木豊盛(長次)に、豊後の日田5千石宛行いました。この書状も弊店が扱ったもので、日田の資料館にいけば、最初に掲示されています。江戸期に日田は天領となりました。加藤清正は、最後に170人で出陣していますが、戦はしていないと思います。